

# ベートーヴェンが愛したピアノたち

講師 ピアニスト 久元 祐子

鍵盤楽器の変遷の時期に活躍したベートーヴェンは、それぞれの年代によって、使用したピアノが異なります。現代のピアノとは異なる18世紀後半から19世紀初頭にかけての鍵盤楽器を紹介し、ベートーヴェンが愛用したピアノと作品の間の密接な関係についてピアニストの視点でお話いたします。（講師・記）



©武藤 章

<講師紹介>は裏面をご覧ください。

日 時 2021年 6/19 1回

土曜日 16:00 ~ 17:30

受講料 会員 3,553 円(入会金は 5,500 円。70 歳以上は入会無料、証明書が必要です)

一般 4,653 円

設備費 165 円

※入会金・受講料・教材費等は消費税 10%を含む金額です。

※受講料には音楽使用料が含まれています。



※ご入会の優待制度をご利用の方はお申し出ください。

※日程が変更されることがありますので、ご了承ください。

※講師の病気や、受講者が一定数に達しない場合などには、講座を中止することがあります。

 朝日カルチャーセンター

<新宿教室>

〒163-0210 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

Tel:03-3344-1945

<https://www.asahiculture.jp/>

## <講師紹介>久元 祐子(ひさもと・ゆうこ)

東京藝術大学音楽学部(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。

ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、読売日本交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。

知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。

ブロードウッド(1820年製) ベーゼンドルファー(1829年製)、プレイエル(1843年製)、エラール(1868年製)などのオリジナル楽器を所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追及する。

2010年、ショパン生誕200年記念年には、全国各地でプレイエルを使つての演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇皇后両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾り、日本人で唯一ベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。

国立音楽大学創立90周年記念事業 楽器学資料館ピアノプロジェクトとして2013年に開催されたレクチャーコンサートで歴史的楽器5台を使用したコンサートに出演し、2014年には「黎明期のピアノ～プレイエル、シャンツ、ブロードウッド」(サントリーホール・ブルーローズ)に出演。

2012年、2014年イタリア国際モーツァルト音楽祭に招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。2017年イタリア国際モーツァルト協会(ロヴェレート)の招きでリサイタルを開催(フォルテピアノ《ヴァルター・モデル》を使用し演奏)。

毎日21世紀賞を2度にわたり受賞。その特選の副賞として1997年JAIMS(日本・アメリカ・インスティテュート・マネージメント・サイエンス)に留学し、経営学を学ぶ。その間、ホノルル・シンフォニーにおいて音楽プロデュース論などを学び、成績優秀賞を得て修了。

これまでCD13作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特薦盤、レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン”テレーゼ”ワルトシュタイン」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。

著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「モーツァルトはどう弾いたか」(丸善)、「原典版で弾きたい!モーツァルトのピアノ・ソナタ」(アルテスパブリッシング)、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」「ショパンとプレイエル・ピアノ」「リストとベーゼンドルファー・ピアノ」(学研プラス)など多数。

国立音楽大学・大学院教授、ベーゼンドルファー・アーティスト、日本ラトビア音楽協会理事、PTNA(全日本ピアノ指導者協会)評議員。

久元 祐子ウェブサイト <http://www.yuko-hisamoto.jp/>